

魔法の Wallet プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:和久田 高之 所属:神奈川県立相模原中央支援学校

記録日: 令和2年2月10日

キーワード:コミュニケーション、VOCA、写真・動画、語彙力、自己理解、手話

【対象生徒の情報】

○学 年 : 中学部1年(13歳)

○障 害 名:知的障害 障害者手帳A1 (気管切開と胃ろう注入をする医療的ケア対応生徒である)

○障害と困難の内容

【基本情報】

認知面

・太田 Stage 評価は、StageIVの前期段階である(H.31.4)。

コミュニケーション面

<言語理解について>

・日常的な会話(いつ、誰と、どこで、何をしたか等)の内容を理解したり、指示を聞いて行動したりすることができる。

<文字理解について>

・平仮名の理解(文字と音が一致するもの)と指文字の理解(指文字と音が一致するもの)は、半分程度である。

<意思表示について>

・意思表示は、サインやジェスチャー、手話、指文字である(気管切開をしているため、音声言語の表出は難しい)。

優先順位:①サイン・ジェスチャー②手話③文字・指文字

<サイン・ジェスチャー>独自のものであるため、伝わる相手(担任等)を介して伝えたい人に伝える。

<手 話>挨拶や教科名は表出できるものもある。本校の聴覚障害の友達が好きで、覚えようとしている。

<文 字 ・ 指 文 字>理解している平仮名や指文字が半分程度なため、自発的に表出することがない。

身体機能面

・歩く、走る、両足で跳ぶ等の粗大運動ができ、いろいろな動作の手本を見て、模倣することができる。

・目的的に手指を使うことが難しい。左右で薬指や小指が曲げにくい等がある。

iPhone・iPadの操作面

・スクロールやタップ等の基本的な操作ができる。フリック入力を理解しており、文字入力ができる。

情緒面

・ゲームや競争で1番になれないことや掃除や片付け等、自分のやりたくないことを促されることで不安定になる。

⇒1日に1~2回、5分以上情緒が不安定になる。情緒が不安定になると泣き続け、物を投げたり友達に手が出たりする。

・面白いことや嫌なことがあるときに、自分の手を噛んだり頭を叩いたりする。

【本人の困り感】

困り感①「伝えたい内容が伝えられない」

・友達や教員に関わることが好きで伝えたいことが多いが、伝える手段が少なく、伝えられないことも多い。

・具体物を使って伝えようとすることもあるが、時間がかかってしまう。

困り感②「伝えたい人に伝えられない」

・サインや手話を理解している人が限定的で、伝わる人を介して伝えたい人に伝えようとする。

・理解している文字が半分程度のため、文字入力に抵抗がある。

困り感③「自分の気持ちばかり…」

・自分がやりたくないこと(片付け等)は避けがちであり、促されたり注意されたりすると怒ったり泣いたりすることがある。

・ゲーム等で1番になりたい気持ちが強く、負けると泣いたり、友達に手が出てしまったりすることもある。

【活動目的】

○当初のねらい

①手話の理解と表出を伸ばす!

～手話を使って、日常的な会話(家庭の出来事や授業内容等)や自分の気持ちを伝えることができる～

②平仮名と指文字の理解と iPhone を使った表出を広げる!

～iPhone に文字を入力して、音声化することで、いろいろな人とコミュニケーションが取れる～

③自分の気持ちを整理したり、他者の気持ちを考えたりして、場に適した行動を増やす!

～自分の気持ちや行動を振り返って、場に適した行動ができる～

○実施期間:令和元年5月～令和2年2月

○実施者:和久田 高之

○実施者と対象生徒の関係:担任

【活動内容と対象生徒の変化】

①『手話の理解と表出を伸ばす!』について

○対象生徒の事前の状況(具体的な困り感)

・教員や友達と関わることが好きで伝えたいことが多くあるが、伝える手段が少なく、伝えられないことも多い。

特に感情の表出は、嬉しいときや悔しいときに手を噛んだり頭を叩いたりして、適切に気持ちを伝えることができない。

・サイン・ジェスチャーは、伝わる人が限定的であり、具体物を使ってコミュニケーションを取ろうとすることもありますが、時間がかかってしまう。

<仮説>

手話を覚えて表現できれば、適切に感情を表出したり、伝えたいことを簡単に伝えたりすることができるのではないか。

○活動の具体的な内容

学校で手話を学ぶときに、動画を撮影する。DropTalk に撮影した手話をまとめ、家庭に持ち帰り、宿題で練習する。

①楽しかったことや教員が覚えてもらいたいこと等について『手話 Station (アプリ)』調べる(図1参照)。*教員と生徒

②『手話 Station』の映像を見て、手話の練習をして、動画を撮影する(図2参照)。*教員と生徒

③撮影した動画を「文字」「音声」「手話」の3つがセットになるように『DropTalk』にまとめる(図3参照)。*教員

④iPhone を家庭に持ち帰り、母親と確認しながら手話の練習をする。

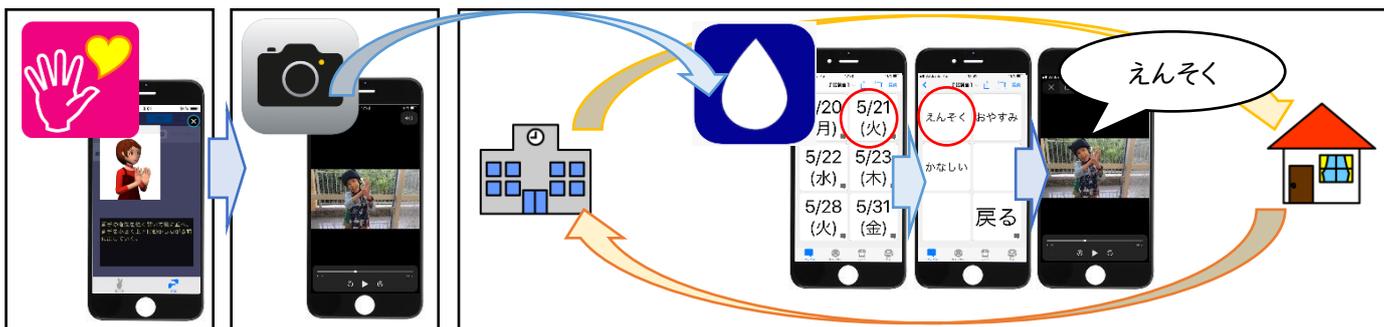


図1.手話 Station

図2.カメラ(動画撮影)

図3.DropTalkとリンクの様子/家庭とのやり取りのイメージ

○対象生徒の事後の変化

・感情を表出する手話が増え、手を噛んだり頭を叩いたりすることが減った。

また、他にも友達の名前等、幅広い言葉を手話で表現できるようになった。

・手話が増えたことで、単語で伝えていたことが、「いつ」「どこで」「誰が」「どうした」という文で気持ちを伝えられるようになり、放課後デイサービスの出来事や休日に楽しみにしていることを伝えられるようになった。



画像1.気持ちを伝えるようになった様子(イメージ)

②『平仮名と指文字の理解と iPhone を使った表出を広げる!』について

○対象生徒の事前の状況(具体的な困り感)

- ・ジェスチャーや手話は伝わる人が限定的であるため、伝わる人を介して伝えたい人に伝えようとする。
- ・理解している平仮名が半分程度のため、文字入力に抵抗がある。そのため、身の回りに iPhone やペチャラはあるが、自発的に活用できていない。

<仮説>

文字入力を使って、表出することで、伝えたい相手に気持ちを伝えることができるのではないか。

○活用の具体的内容

自分の伝えたいことを『メモ』に入力して、音声化することで伝えたい人(仮名:A)に伝える。

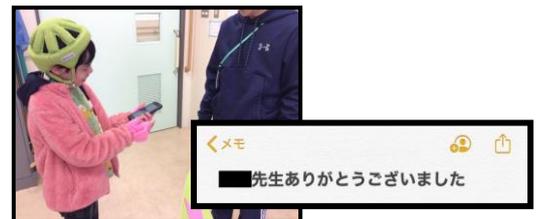
- ①生徒がAに伝えたいことを担任に手話またはジェスチャーで伝える。
- ②担任が伝えたいことを確認して iPhone で文字入力することを促す。
- ③対象生徒が iPhone を受け取り、『メモ』に文字入力する。
※対象生徒が拒否したときは、無理をしない。
※教員が状況に応じて補佐する。
- ④AssistiveTouch を押して、『メモ』を音声化して、Aに伝える。
※音声化はアクセシビリティを活用(図4参照)。



図4.アクセシビリティの活用方法

○対象生徒の事後の変化

- ・活動を始めた当初は、担任を介して(手話を言語化して)伝えたい人に気持ちを伝えていたが、徐々に、手話やジェスチャーが伝わらない人には iPhone に文字入力をして音声化して伝えようとするようになった。



画像2.教育実習生に感謝を伝える様子と生徒が入力した文章

③『自分の気持ちを整理したり、他者の気持ちを考えたりして、場に適した行動を増やす!』

○生徒の事前の状況(具体的な困り感)

- ・競争やゲームで一番になりたい気持ちが強く、負けると不安定になり、物を投げたり友達に手が出たりすることがある。
- ・掃除や係活動等、自分がやりたくないことは避けがちであり、注意をしたり促されたりすると怒ったり、場合によって泣き出したりすることがある。

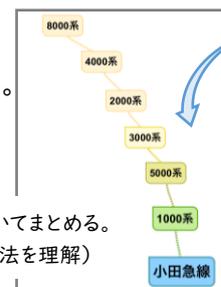
<仮説>

自分の気持ちを整理したり相手の気持ちを考えたりすることで、社会性のある行動が増えるのではないか。

○活動の具体的内容

自分の気持ちを整理したり、相手の気持ちを考えたりする機会を作り、自分の考えや行動を見返す。

- ①具体的に対象生徒がやったことやエピソードを話す。
(例:給食のケア物品を洗わないことや友達に手が出たこと等)
- ②SimpleMind+で自分の気持ちを整理したり、相手の気持ちを考えたりする。
- ③どのような行動が望ましいかを確認する。
⇒同じ場面に遭遇したときに、行動するように促す。



好きな電車(小田急線)についてまとめる。
(SimpleMind+の作成方法を理解)

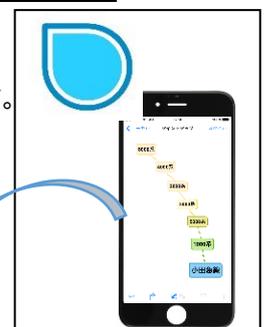


図5.SimpleMind+ (本人が作成)

○対象生徒の事後の変化

- ・片付けや掃除等、自分がやりたくことも自らできるようになった。また、場に適した行動ややり取りができるようになった。また、『ルールだよ』と伝えることで、場面に応じて自分の行動をコントロールすることもできるようになりつつある。

【報告者の気づきとエビデンス】

①『手話の理解と表出を伸ばす!』について

○主観的気づき

手話で表出できることが増えたことで、適切な感情表出ができるようになったのではないかな。

また、手話が増えたことで、単語の表現から文章の表現に変化したのではないかな。

○エビデンス

・手話で表現できることが増えてきている(表1参照)。特に、感情を表す言葉が増えた(表2参照)。表1ジャンルの他にも地名(横浜、相模原等)や好きな物の名称(電車の名前やアイドル等)を手話で表出できるようになった。その他、動物や乗り物、色等の名詞/大きいや難しい等の比較を表す手話も覚えて表出できるようになった。

・感情の表出が増えて、「楽しい」「寂しい」「ヤバい」等の手話を使うことが多くなった。また、手を噛んだり頭を叩いたりすることが減った(表3参照)。手を噛んだり頭を叩いたりしていたことが、徐々に「面白い」「頭にくる」といった手話で表現できるようになった。また、好きな友達が休んだときに「頭がくる」と表出していたが、表出できる手話が増えたことで同じような出来事があったときに、「悲しい」「寂しい」と表出するようになった。

・手話を覚えることが早くなり、DropTalk に単語でまとめていたことが、9月から文として手話をまとめ、覚えるようになってきた(図6参照)。

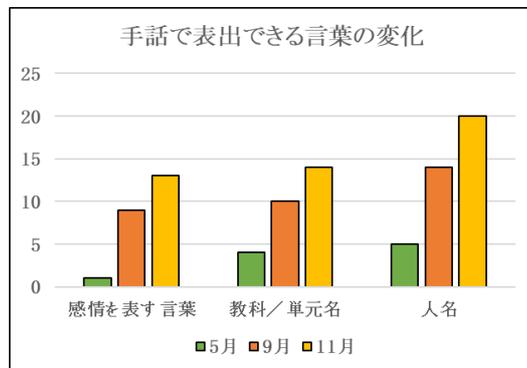


表1.手話で表出できる言葉の変化

5月	楽しい・嬉しい			
11月	頭にくる	痛い	面白い	～したい
	ヤバい	悔しい	悲しい	寂しい
	恥ずかしい	怖い	心配	緊張する

表2.感情を表す言葉の変化

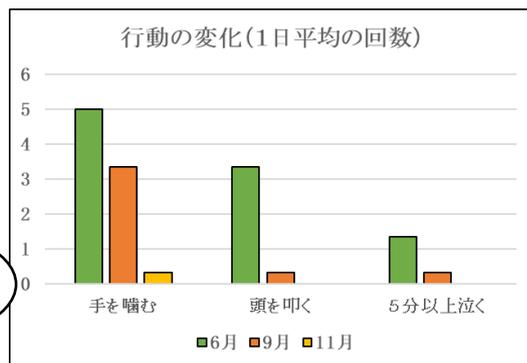


表3.行動の変化(1日平均の回数)



図6.DropTalk の取り組みの変化

○エピソード

・6月までは、単語または2語文での表出が多かったが、手話で表現できることが増えたことから、7月からは4語文以上の表現をすることも増えた。その特徴として、6月までは「だれ」「どうした」の組み合わせがほとんどであったが、7月からは「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」「どうだった」の順番で、出来事を表出するようになってきている(エピソード1)。

5月9日:「お母さん・怒る」⇒教員が理由を聞くと、具体物を指して理由を伝えようとする(教員は理解できず)。

9月10日:「昨日・家・お母さん・怒る・僕・泣く」⇒教員が理由を聞くと、具体物の指差しと手話を使って伝える。

2月4日:「昨日・○○○(友達)さん・××先生・休み・だった・から・怒っていた・思う」⇒教員が納得

エピソード1.手話の表現の変化(「手話を直訳」)

・手話で表現できる感情の言葉が増えたことで、場面に応じた感情の表出ができるようになってきている。1月からは、相手の表情から気持ちを予想して表現できることも増えて、冗談交じりのやりとりもできるようになった(エピソード2)。

12月16日:担任に自分のよだれを付ける⇒担任が注意する⇒本人は納得ができず怒る

1月30日:担任に自分のよだれを付ける⇒担任の表情を見て、「和久田先生・怒る・思う・怖い・ごめんなさい・ごめんなさい」という(笑顔で)⇒担任が気を付けるように伝えたと、本人は笑顔と👉ポーズで納得する。

エピソード2.表情を見て感情を予想して伝えるようになった変化(「手話を直訳」)

②『平仮名と指文字の理解と iPhone を使った表出を広げる!』について

○主観的気づき

- ・文字入力を音声化することで、手話が伝わらない人に効果的であることを理解しているのではないか。
- ・理解できる(音と文字の一致)文字が増えたのではないかと。

○エビデンス

- ・6月までは、教員が促すまで文字入力をする事がなかったが、7月から徐々に自発的に文字入力を行うようになった(表4参照)。また、手話やジェスチャーが伝わらない人には、文字入力で伝えることが増えた(表5参照)。
- ・文字入力を繰り返すことで、好きな物の名称だけでなく、「ありがとう」等の挨拶や「○○好き」等の定型文の入力がスムーズになった(予測変換を活用しての表現が多くなった)。内容の幅も、頑張ったことや楽しかったこと等を発表する内容や「ありがとう」「ごめんね」等の挨拶がほとんどであったが、7月からは「××を貸してください」「△△はどうしたの？」等の自分が気になることを文字入力して、伝えたい相手に伝えるようになった。
- ・教員の言葉を文字入力することで、音と文字が一致するものが増えたと考えられる(表6参照)。また、文字から指文字に、指文字から文字に変換する学習を繰り返し行うことで、指文字の理解(音と指文字が一致するもの)も文字と同様に増えた。
- ・12月までは、授業でホワイトボード等に提示された文字を見ても教員が読むことを待っていたが、1月からは、指文字を使用して読もうとすることが増えている。

○エピソード

- ・6月までは、困っていることがあって手話で伝えようとしても伝わらず、癇癇を起こすことがあったが、7月に手話で伝わらない人に、自分から iPhone を要求して、文字入力を活用することで、直接、伝えることがあった(エピソード3)。

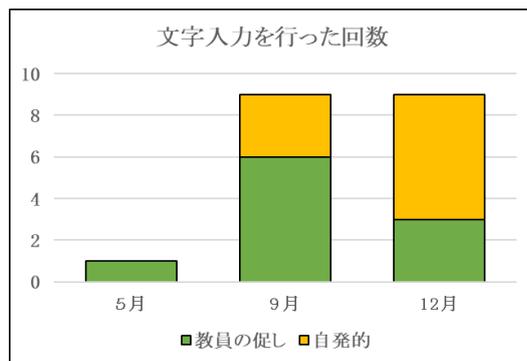


表4. 文字入力を行った回数

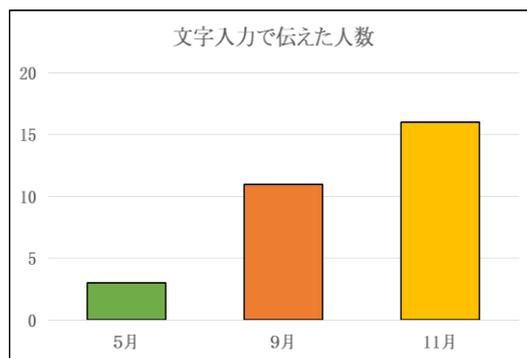


表5. 文字入力で伝えた人数

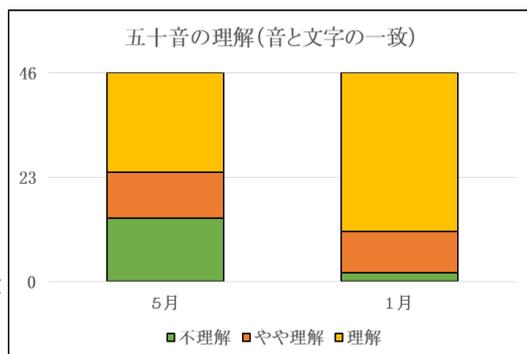
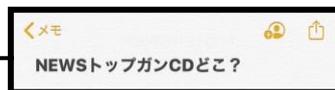


表6. 五十音の理解 ※濁音、破裂音等は除く

5月16日:着替え中に時計を外そうとしたら壊れてしまい、自分で直すことができず、10分間以上泣き続けた。

教員が壊れた時計に気づき、時計のことを確認すると泣くことがおさまった。

7月12日:宿泊学習にお気に入りのCDを持って行ったが、なくしてしまった。iPhoneを貸してほしいと担任に伝え、一緒に活動していた教員に文字入力で伝えることができた。

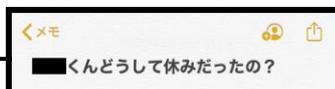


エピソード3.文字入力活用の変化と生徒が入力した文章

- ・担任を介して、担任以外の教員や友達に気持ちを伝えることが多いが、文字入力することで他部門の友達と積極的に関わろうとする場面も増えてきた。本の貸し借りをしたり給食を一緒に食べたりする友達が数日間休んでおり、久しぶりに登校したときは、文字入力を活用して理由を聞こうとする場面があった(エピソード4)。

10月頃まで:休んでいる友達に気づき、手話で「○○さんがいない」や「××さんはどうしたの?」等ということはあるが、担任に伝えるだけであった。

2月4日:給食をよく一緒に食べる友達の休みが続いて、久しぶりに学校に登校したときに、休んでいた理由を文字入力で聞くことができた。



エピソード4.文字入力活用の変化と生徒が入力した文章

③『自分の気持ちを整理したり、他者の気持ちを考えたりして、場に適した行動を増やす!』について

○主観的気づき

・生徒が気持ちを整理した上で、教員の考えを伝えることで、場面に応じた行動が増えたと考えられる。

○エビデンス

・SimpleMind+でまとめた内容は、自発的に継続してできている。

【給食のケア物品の片づけについて】

対象生徒は胃ろう注入であり、給食時にケア物品を使用しているが、自発的に洗うことがなく、教員に頼んで自分は玩具で遊んだり iPad で遊んだりすることが多かった。

⇒ケア物品を洗うことについて、生徒の気持ちや担任の考えを対象生徒に質問しながらまとめた(図7.8参照)。

<6月>

ケア物品を洗う理由は、担任が怒るからという理由であった。また、担任以外と給食を食べるときは、教員がケア物品を洗うという考えであったが、理由は言えない(手話で表現できない)とのことであった。

⇒ケア物品を洗うのは、“自分の物は自分で片付けた方がいいから”だよと伝えると、手話で「なるほど」と言って泣いた。

また、その日の給食から誰と給食を食べても自分のケア物品を洗うようになった。

<9月>

ケア物品を洗う理由は、「自分でできるから自分で洗う」であった。また、拭くことも自分でできると言い、ケア物品を洗って拭くということを継続して取り組むようになった。

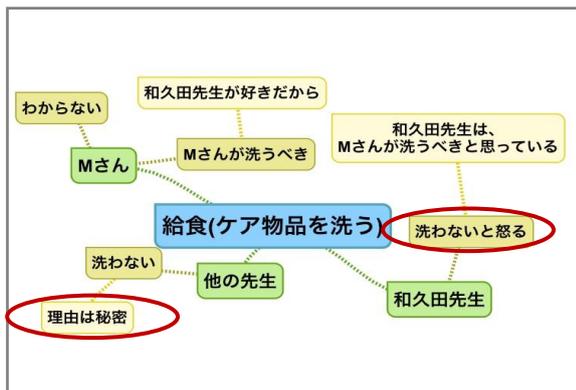


図7.ケア物品を洗うことに関する考え(6月 25 日)

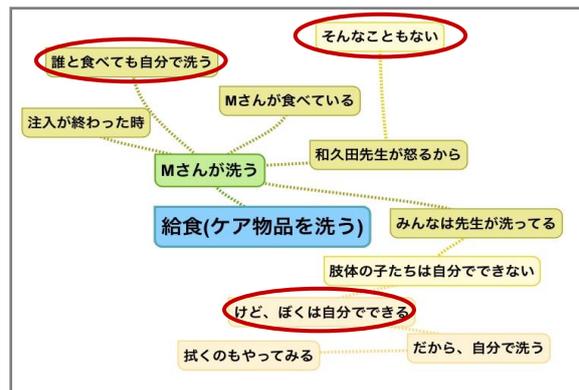


図8.ケア物品を洗うことに関する考え(9月 10 日)

○エピソード

【ゲームに負けて友達を叩くことについて】

ゲーム(学年活動/ボーリング)に負けると、勝った友達に手が出るがあった。SimpleMind+で気持ちを整理した。

⇒友達に手が出ることは悪いことで、気持ち(悔しい、おめでとう等)を伝えた方が良いとまとめた(6月 25 日)。

6月 18 日: 学年活動のボーリングで1位になることができず、1位になった友達に手が出てしまうがあった。その後、10 分程度泣き続け、気持ちが落ち着くまで時間がかかった。

2月 6 日: 国語・数学のすごろくで、最下位になってしまったが、手話で「悔しい」と伝え、1位になった友達に「おめでとう」と伝えることができた。

エピソード5.ゲームに負けたときの感情表出の変化

○母から～1年を振り返って～

【①『手話の理解と表出を伸ばす!』について】

手の機能性から手話は諦めていたので、思いのほかできるようになり、伝えたいことが伝わることで自信にも繋がっているようです。基本的に、『話したい・伝えたい』という気持ちが強い子なので、手話の吸収力はすごいです。1番伸びたことは、『誰が』や『どこで』等が会話の中で明確になってきたことです。連絡帳に書いてないことも教えてくれるようになりました。伝わらないことも多々ありますが、手話ができなかった頃と比べ、会話はしっかりと成立しています。

【②『平仮名と指文字の理解と iPhone を使った表出を広げる!』について】

平仮名・片仮名を覚えることが課題でした。入力の段階で迷うことはありますが、iPhone 等の予測変換に助けられています。50 音が完璧に入れば、絵カードではなく、スマホ等の機器を利用した文章による会話も成立すると思います。最近、私が外出中にLINEで「〇〇どこ?」等と聞いたり「ラコール(注入物)」と食事の開始を伝えたりすることもあります。好きな友達と手話で2、3時間テレビ電話をすることもありました…親も巻き込まれましたが(笑)

【③『自分の気持ちを整理したり、他者の気持ちを考えたりして、場に適した行動を増やす!』について】

医療的ケア(食事面)では、1日の中の最後のショット注入を、服薬を含む準備から一人でできるようになりました。21 時と決め、自身でしっかり時計を見て指示がなくてもきちんと取り組んでいます。学校やデイサービスで使用する注入セットの用意や着替え等も自分でやるようになりました。問題があるとなれば、準備等をやりっぱなしで終わることもあるので、最後までしっかりと終わらせることが今後の課題です。

○今後の見通しについて

・手話と文字入力というコミュニケーションを通して、本人が思っていることを SimpleMind+ でまとめた(図9参照)。

<手話>

・伝わらない人がいるということも分かっているが、「手話でいい」と言っていることから、伝える手段として1番自信を持っていることが考えられる。

<文字入力>

・手話が分からない相手にも文字を音声化することで伝えることが分かっており、今後も頑張った方がいいと感じている。

⇒手話の表出を伸ばしながら、文字入力で伝えられる言葉を少しずつ増やして行ってほしい。

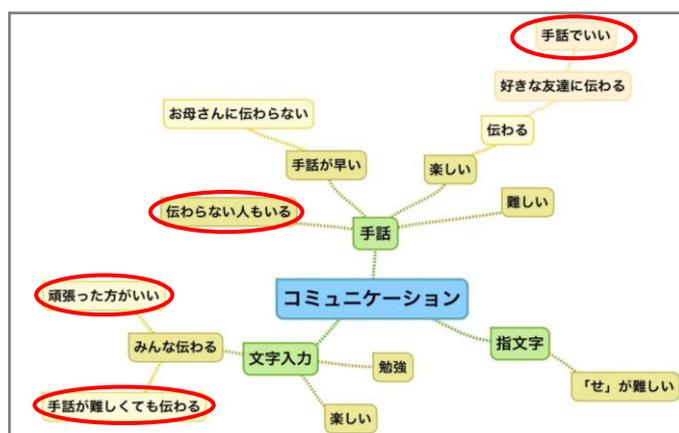


図9.コミュニケーションに関する考え(1月 29 日)